

結ばれて同じ形に。

練習題 §. 22

be動詞

1. Bhīmasya (§.21) sutā (§.22) dīnā bhavati.

~~Bhīmasena-~~
Pāṇḍu 王の息子の名
m. Sg. G (属格)

sutā-
娘
f. Sg. N (主格)

dīna-
adj
悲嘆に暮れた。
悲しむ

↓ bhū 存在, ある
能動態 直説法 現在
単数 3人称 (p.170)

Bhīma-
王の名
m. Sg. G (属格)

(cf. suta-息子)

述語としての
形容詞は曲用
されるだけ?
↑ §.15-4

Bhīma (王) の娘は悲しみに暮れた。

dīnāḥ
↑ §.4, 21
dīnās (m. Pl. {N, Vo}?)

2. śarpena daṣṭā (同じ格) kanyā mṛtā.

śarpa-
蛇
m. Sg. I (具格) by

↓ daṣṭa-
p.pt.
咬まれた。
形容詞

↑ §.15-4
kanyā-
f. Pl. N
少女・乙女

§115 II (p.173)
↓ mṛta-
p.pt. 死んだ
mṛta- 死者
m. ころ曲用はない

↑ §.20 (I)
śarpena

↑ §.4, 22
kanyāḥ
kanyās (f. Pl. {N, Vo} Ac.)

少女たちが蛇に咬まれて死んだ。
↓ 蛇によって咬まれた少女が死んだ。

3. bhadre,
adj? f. Sg. Voc?
(bhadra-)

(語幹 a で終わるけど
意味的に女性名詞
ā の変化も何と?
~~それと連声の関係?~~)

語彙 ページの誤植と
いう可能性も?

(p.22: 形容詞だったら
修飾する名詞の性に合
わせて曲用するよだけ)

コマについてし Vocative
っぽいよね。

愛する君、

nr. pasya
nr. pa → 王
m. Sg. G
(属格~)

senaya
senā-軍勢
f.

(必ずしも外連声
が起きた結果
とは限らない
のかな。

↑
senayāh
↑
senayās
と直すと、
ayā ても
āyās ても
なる。

そのまま ayā ても
f. Sg. I (具格)
by

ripu-senā
敵の軍勢

そのままと考えると

f. Sg. N
āh ← ās と
考えると
f. Pl. { N (主)
Voc. (呼)
Ac. (対) }

jitā.
§.15 II

√ jita-
征服された
討たれた。
(p.pt.)

(活用はまだ習って
ない)

愛する君よ、敵の軍勢は、
王の軍勢に征服された。

4. lajjayā
lajjā-
羞む、内気
f. Sg. I
(by)

kanyā
f. 少女、乙女
↑
kanyāh
↑
kanyās と
変形するから

そのままだと
f. Sg. N
ās だと
f. Pl. { N
Voc
Ac.

na praty-abhāsata.

adv.
ない(否定) √ prati-bhās 「答える」の
反射態 過去 単数 3人称

少女は羞らいために
答えなかった。

a [§. 15-1]

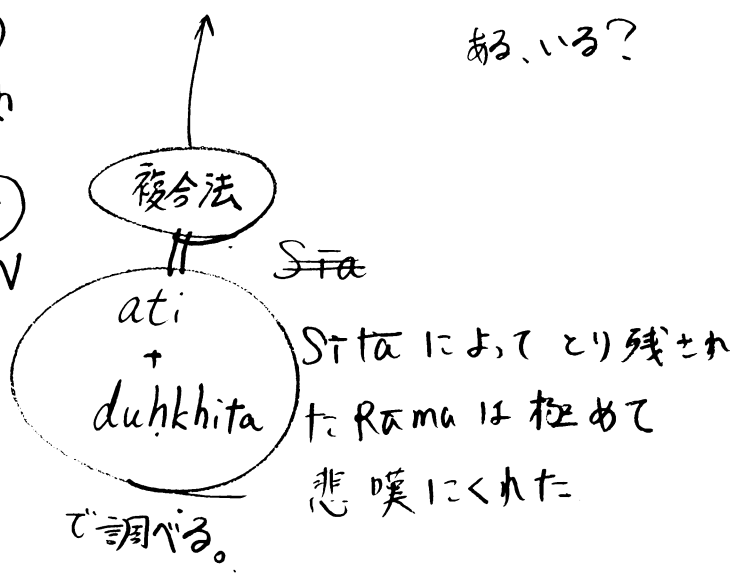
5. Sītayā rahito Rāmo 'tiduḥkhito 'bhavat.

Sītā -
f. 王妃の名
Sītās だて
Pl. になておかし
いだろウ。
f. Sg. I
(by)

√rahita-
とり残された
~(Inst.) えた
p.pt.

Rāma-
m. 王の名
↑
(§. 15-1)
Rāmah
↑
Rāmas
m. Sg. N

atidāna- (adj)
丸前の良い
かゝ変形した?
√bhū- の能動態
過去 単数 3人称



6. kanyābhiḥ

kanyā- f.
少女, 乙女
↑
kanyābhis
f. Pl. I
(by)

phalāni dattāni.

中性の Nominative Inst.

少女たちによて 果実が与えられた。

7. kanyāyai phalam̄ prādāt.

8. bhadre śālayām̄ kanyāḥ sīdanti.

「かれは座る」
§. 61 V

9.

kr̥payā dhanam prādāt.

10. kanya yoh preṣyā śālām jagāma.

11. Sītayā kanyāyai phalam dattam.

12. bhāryayā sahito Rāmo jagāma.